

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171300260		
法人名	有限会社 MMK		
事業所名	コスモス吹上		
所在地	鴻巣市吹上本町1-11-8		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和5年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしさを大切に」「自立支援」を目標に、入居者のことを一番に考えケアに結びつけている。外に出かける機会が多くなるよう考え、実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高崎線、吹上駅より徒歩で5～6分の場所にある、1ユニット定員9名のグループホームである。周りは住宅地で道路に面しているが、近くには公園などがあり静かな環境である。「自分らしさを大切に」「自立支援」を目標に支援に取り組んでいる。地域のひととの交流や一人ひとりの入居者に寄り添い、笑顔で楽しく過ごせるよう配慮している。リハビリを兼ねたレクリエーションや食事に力を入れており、入居者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針を理解し、実践につなげている。	管理者は理念を職員会議や実践の場で伝え、浸透を図っている。職員もそれを理解し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、外出レク等により、地域とのつながりの保持を図っている。	自治会に入会しており、今年は吹上神社のお祭りでみこしがホームに寄ってくれた。近隣への散歩や近くの公園や電車を見学したり、春には桜を見に出掛けている。近所の方が菖蒲を持って来てくれたり、声をかけてくれている。	今後も地域の人との繋がりを広げ、交流の機会を増やし、防災訓練や災害時の協力体制、外出支援の協力などに繋がっていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケア会議、運営推進会議等により、実践している方法を学びあい、生かされていると考える。※新型コロナの影響でやむを得ずできない部分がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則年6回開催し、サービスの取り組みや現状の報告を行い、そこでの意見を質的な向上に活かしている。	年6回の運営推進会議を偶数月に開催している。自治会長や民生委員、包括支援センター担当者、市役所担当者の参加があった。管理者はレクのマンネリ化について参加者に投げかけ、「運動会の開催は？」との意見をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは日頃より、事業者連絡会に参加したり、その他、わからない点などを聞いたり協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は市の担当者と日頃から連絡を取り、サービスの取り組み状況や空室の報告など、電話やメールでやり取りをするなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための対策に関する委員会、研修等を行っている。職員会議等でも扱っている。	運営推進会議の中で身体拘束等の適正化のための対策について定期的に話し合いを行っている。道路に面しており、夜間のみ安全のため施錠を行っている。職員会議で話し合い共有し、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を定期的に行っていて、職員の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格に関する研修の中で触れる機会があると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者等が十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、話を聞くよう心掛け、会議などで取り上げている。	家族の面会時などを捉えて意見や要望を伺うようにしている。それらを会議などで検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議が行われ、話し合われている。また、職員は連絡帳に意見や提案も記載している。	管理者は職員会議や連絡帳、日頃の業務の中で職員の意見や提案などを聞いており、提案により午後の入浴を午前に変更した事例がある。職員の個人的なことに関しては社長に随時、相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々を把握し対応している。今後も整備につとめて行く。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量の把握に努め、資格その他に関する研修等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(仮)鴻巣グループホーム会にて、学び、話し合う機会を持っていた。コロナ以降は一同に集まってはいないが、個別にそれぞれと連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に傾聴し、まずは信頼関係を築くことを大切に考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を理解しようと努め、話を聴き、ケアに結び付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは1週間程度様子を見て、本人、家族が納得できるか考え、他のサービス利用も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する一人としての立場を守るように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取りながら、情報交換等も行われている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気持ちよく面会できるよう心掛け、声をかけている。※新型コロナの影響でやむを得ずできない部分がある。オンライン面会を可能としている。	家族の面会時に知人が一緒に来たり、馴染みの美容院に家族と出掛ける方もいる。これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係を壊さず、時にはフォローに回ったり、間に入ったり雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もしばらくの間、交流を持ち、関係が継続されたご家族もいらっしゃいます。※新型コロナの影響でやむを得ずできない部分がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話の中から、日々の生活の中から把握できるよう努め、ケアに結びつけるため検討している。	月1回、ケアプランのモニタリングをしている。入居者の思いや意向などを検討し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、習慣などをとても大切に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握は毎日心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	皆の話を聴き、ケアマネが取りまとめている。	ケアマネジャーは職員会議中にサービス会議を開催し、夜勤の職員も一緒に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を皆で書くことにより多数の気づきがあり、共有できるようになっている。月一回の全体会議もケア向上に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望は可能な限り実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度、体調に合わせて参加している。※新型コロナの影響でやむを得ずできない部分がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医があり毎月の往診、また必要時に受診している。	月1回の協力医療機関の往診がある。歯科は必要時に往診いただいている。本人、家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、看護師と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供をしている。かかりつけ医からの紹介を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針に基づいて対応する。	入居時に重要事項説明書の中の「重度化（終末期）した場合のケア対応指針」について説明している。ホームでは出来る限りの支援を行い、指針に基づいた対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えてはいない。研修などに参加し、自主的に学んでいるのが現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は入居者、職員共に協力して実施している。地域住民にはパテライトについて周知済みである。	年2回の防災訓練を消防署と行った。通報・避難誘導、消火器の使い方、夜間想定等、職員はその方法を身に付けている。パテライトは地域の住民に周知されている。市より水害訓練の必要性の言及があり、年1回行っている。水や食料品などの備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	よくできている。1人ひとりにやさしい声かけができている。	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシー保護について勉強会の中で学んでおり、誇りやプライバシーを損ねない、やさしい言葉掛けや接し方をしている。管理者は不適切な言動に気が付いたときは随時注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大事にし、確認し実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決められた事以外は一人ひとりのペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげなく関わることにより楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や味見、また片づけ等を一緒に行っている。	おやつ作りでは団子やホットケーキなどを皆で作り、誕生日の方の希望を聞いてメニューを決めている。エプロンたたみやテーブル拭き、お盆拭き等、入居者の力を活かしながら手伝って頂き、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立が決められている。その場で作った食事を提供することを大事にしている。形態はその人に合うよう手を加えている。飲み物も時間、季節に応じて変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。声かけ、見守り、一部介助など行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報共有することによって、日々介助している。様子からサインを見逃さないよう心掛けている。夜はゆっくり休めるよう対応している。	排泄パターンを掴みトイレ誘導を行っている。サインを見逃さないように情報共有しながら皆で排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はゆっくり休めるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況を記録から把握し必ず対応している。排便間隔をみて、薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決められているものの、自分のペースで入ることができるよう配慮している。	週2回の入浴支援を行い、拒否のある方は時間をずらしたり日を変えたりと、個々のペースに合わせて、楽しい入浴になるよう支援をしている。近所の方に季節の菖蒲・柚子などをいただいた時はお湯に入れ、楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して寝られるような声かけしている。本人が寝られるまで見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在処方されている薬についてまとめられており、副作用など把握できる。事典で調べられることもできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにできることをお願いしたり、一緒に行っている。本人の希望に沿うよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩をしている。年間行事の中に、外出する機会を設けている。	天気の良い日には散歩やドライブに出掛け、ポピー摘みをしたりしている。ホームでは年間計画の中で入居者の希望などを把握し、外出の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして預かっているが、出かけたときには希望通り使うことができる。※新型コロナウイルスの影響でやむを得ずできない部分がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたいという人はあまりいないが、個別の状況を考慮しながら、対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、照明環境は状況に応じて調節している。廊下に2か所ソファ等があり、くつろぎの場となっている。本人に合った椅子を使用している。	食堂兼リビングでは食事づくりの風景が見え、家族的な雰囲気がある。空調は適切に管理され、廊下にはソファが置かれ、くつろげるよう配慮している。壁には献立表やみんなで作った季節の作品が飾られている。椅子は本人に合ったものを使用し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人でゆっくり過ごすことができる。廊下のソファは2, 3人でのちょうどいい話の場となっている。リビングでは皆さんで仲良く談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を使用し、心地いい居室となっている。	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。テレビや布団、写真など個々に持ち込んでいる。職員は毎日環境整備に入り、できる方にはほうきなどで掃除をして頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく車いすに乗るようにならないよう、また、なってしまったとしてもつかまり立ちができるよう最大限努力している。インテリアは使いやすいように考えられ、必要時に声かけ、誘導を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1(2)	継続的に、地域の人との繋がりを広げ、交流の機会を増やし、防災訓練や災害時の協力体制、外出支援の協力などに繋がっていくことが期待される。	自治会や地域住民との繋がりを継続する。	運営推進会議を活用して、定期的に地域と繋がる機会を設け、自治会の方、民生委員、地域の方々と広く繋がっていく。防災訓練や災害時の協力、外出支援の協力等について呼びかけていく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。